

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

[illegible]

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

(4)避難**勧告**等の伝達及び監視
火山現象により町長が発する避難の**勧告、又は**指示を住民、登山者及び観光客に伝達する方法及び体制並びに監視のための体制を整備しておくものとする。
特に噴火警戒レベルに応じた立ち入り規制区域の設定や住民避難計画を作成する。
なお、伝達に当たっては、高齢者、障がい者等の要配慮者に十分配慮する。

2防災事業等の推進
町は、火山災害による被害を防止又は軽減するため、必要に応じ次の事業等の推進を図るものとする。
(1)避難施設（退避舎、退避壕、退避広報施設等）の整備
(2)防災**のための農林水産業経営**施設の整備
(3)降灰除去事業
(4)治山治水事業
(5)砂防事業
(6)河川の水質汚濁防止措置
(7)火山現象の調査、研究及びその成果の普及
なお、活火山法の規定に基づく「避難施設緊急整備地域」又は「降灰防除地域」の指定を受けた場合は、活火山法第**3第2項又は同法第8条第1項から第3項まで**の規定に基づく____計画を作成する。

第2噴火警報等
1噴火警報等の種類
活火山である磐梯山の噴火警報等の種類は、以下のとおりである。
(1)噴火警報
仙台管区气象台**火山監視・情報センター**が、噴火に伴って発生し生命に危険を及ぼす火山現象（大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流等、短時間で火口周辺や居住地域に到達し、避難までの時間的猶予がほとんどない火山現象）の発生**やその拡大**が予想される場合_____
_____,警戒が必要な範囲（**影響範囲**）を**付**して発表する。
なお、警戒が必要な範囲に居住地域が含まれる場合は「噴火警報（居住地域）」**又は「噴火警報」、含まれない**場合は「噴火警報（火口周辺）」**又は「火口周辺警報」として発表され、**____噴火警報（居住地域）は、警戒が必要な居住地域を含む市町村に対する火山現象特別警報に位置づけられる。
(2)噴火予報
仙台管区气象台**火山監視・情報センター等**が、**噴火警報の解除を行う場合等**
_____に発表する。

(3)噴火警戒レベル
火山活動の状況**を噴火時等の危険** 範囲_____や住民等がとるべき防災**行動**を踏まえて5段階に区分したもので、噴火警報・噴火予報に含めて発表される。
噴火警戒レベルは噴火警報・噴火予報で発表され、気象庁ホームページに現在の噴火警戒レベルが表示されている。

噴火警戒レベルと噴火予報・噴火警報の関係

(4)避難**指示**等の伝達及び監視
火山現象により町長が発する避難の_____指示を住民、登山者及び観光客に伝達する方法及び体制並びに監視のための体制を整備しておくものとする。
特に噴火警戒レベルに応じた立ち入り規制区域の設定や住民避難計画を作成する。
なお、伝達に当たっては、高齢者、障がい者等の要配慮者に十分配慮する。

2防災事業等の推進
町は、火山災害による被害を防止又は軽減するため、必要に応じ次の事業等の推進を図るものとする。
(1)避難施設（退避舎、退避壕、退避広報施設等）の整備
(2)防災**営農** _____施設の整備
(3)降灰除去事業
(4)治山治水事業
(5)砂防事業
(6)河川の水質汚濁防止措置
(7)火山現象の調査、研究及びその成果の普及
なお、活火山法の規定に基づく「避難施設緊急整備地域」又は「降灰防除地域」の指定を受けた場合は、活火山法第**14条及び第19条** _____の規定に基づく**整備**計画を作成する。

第2噴火警報等
1噴火警報等の種類
活火山である磐梯山の噴火警報等の種類は、以下のとおりである。
(1)噴火警報
仙台管区气象台_____が、噴火に伴って発生し生命に危険を及ぼす火山現象（大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流等、短時間で火口周辺や居住地域に到達し、避難までの時間的猶予がほとんどない火山現象）の発生_____が予想される場合**やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に**、警戒が必要な範囲（**生命に危険を及ぼす範囲**）を**明示**して発表する。
なお、警戒が必要な範囲に居住地域が含まれる場合は「噴火警報（居住地域）」**火口周辺に限られる**場合は「噴火警報（火口周辺）」_____として発表される。噴火警報（居住地域）は、警戒が必要な居住地域を含む市町村に対する火山現象特別警報に位置づけられる。
(2)噴火予報
仙台管区气象台**等** _____が、**火山活動の状況が静穏である場合、あるいは火山活動の状況が噴火警報には及ばない程度と予想される場合**に発表する。
(3)火山の状況に関する解説情報
噴火警戒レベルの引き上げ基準に現状達していないが、今後の活動の推移によっては噴火警戒レベルを引き上げる可能性がある と判断した場合、または判断に迷う場合に、「火山の状況に関する解説情報（臨時）」を発表する。
また、現時点では、噴火警戒レベルを引き上げる可能性は低い が、火山活動に変化がみられる など、火山活動の状況を伝える必要がある と判断した場合には、「火山の状況に関する解説情報」を発表する。
(4)噴火警戒レベル
火山活動の状況**に応じた警戒が必要な範囲と防災関係機関**や住民等がとるべき防災**対応**を踏まえて5段階に区分したもので、噴火警報・噴火予報に含めて発表される。
磐梯山の噴火警戒レベルは以下のとおり。

噴火警戒レベルと噴火予報・噴火警報の関係（表の削除）

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

種別	名称	対象範囲	レベル (警戒事項等)	発表基準等
特別警報	噴火警報 (居住地域) 又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生あるいは切迫している状態と予想される場合
			レベル4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性が高まってきていると予想される場合
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	レベル3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生あるいは発生すると予想される場合（対象範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）
		火口から少し離れた所までの火口周辺	レベル2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想される場合（対象範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）
予報	噴火予報	火口内等	レベル1 (平常)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（対象範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）

注）表で記載している「火口」は、噴火が想定されている火口あるいはそれらが出現しうる領域（火口出現領域）を意味する。

噴火警戒レベル表

種別

名称

対象範囲

レベル・キーワード

説明

警戒事項等

住民等の行動

登山者・入山者等への対応

特別警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある	危険な居住地域(注 2)からの避難等が必要（状況に応じて対象地域や方法を判断）	
			レベル4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まってきている）	警戒が必要な居住地域(注 2)での避難の準備、要配慮者の避難等が必要（状況に応じて対象地域を判断）	
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から居住地域近くまでの広い範囲の過去周辺	レベル3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生	通常的生活（今後の火山活動の推移に注意。入山規制）状況に応じて要配慮者の避難準備等	登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等（状況に応じて規制範囲を判断）

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

				<u>すると予想される</u>			
		<u>火口から少し離れたところまでの火口周辺</u>	<u>レベル2（火口周辺規制）</u>	<u>火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される</u>	<u>通常の生活</u>	<u>火口周辺への立入規制等（状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断）</u>	
<u>予報</u>	<u>噴火予報</u>	<u>火口内等</u>	<u>レベル1（平常）</u>	<u>火山活動は静穏火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）</u>		<u>特になし（状況に応じて火口内への立入規制等）</u>	
<p><u>注1：住民等の主な行動と登山者・入山者への対応には、代表的なものを記載。</u></p> <p><u>注2：避難又は避難準備の対象として市町村の地域防災計画等に定められた地域。ただし、火山活動の状況によって具体的な対象地域はあらかじめ定められた地域とは異なることがある。</u></p> <p><u>注3：表で記載している「火口」は、噴火が想定されている火口あるいは火口が出現しうる領域（想定火口域）を意味する。あらかじめ噴火場所（地域）を特定できない伊豆東部火山群等では「地震活動域」を想定火口域として対応する。</u></p> <p><u>注4：火山別の噴火警報レベルのリーフレットには、「大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流等が居住地域まで到達するような大きな噴火が切迫又は発生：（噴火警戒レベル5の場合）等、レベルごとの想定される現象の例を示している。</u></p>							
磐梯山の噴火警戒レベル表							
	名称	対象範囲	レベル・キーワード	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等	
	<u>噴火警報</u>	居住地域及びそれより火口側	5・避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある	危険な居住地域からの避難等が必要	<u>・大規模噴火の発生</u> <u>・噴火に伴う融雪型火山泥流が居住地域まで到達、あるいはそのような噴火が切迫している</u> 【過去事例】 <u>なし</u> 【予想される事例】 <u>1888年の水蒸気爆発が積雪期に発生した場合</u>	
			4・避難準備	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想	警戒が必要な居住地域での避難準備、 <u>要配慮者</u> の避難等	<u>・大規模噴火の可能性</u> <u>・噴火に伴う融雪型火山泥流が発生し、噴火がさらに継続すると居住地</u>	

磐梯山の噴火警戒レベル表							
<u>種別</u>	名称	対象範囲	レベル・キーワード	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等	
<u>特別警報</u>	<u>噴火警報（居住地域）又は噴火警報</u>	居住地域及びそれより火口側	5・避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある	危険な居住地域からの避難等が必要	<u>・火口から概ね 4 km以内の居住地域に大きな噴石が飛散するような噴火が発生、あるいは切迫している。</u> <u>・火砕流、火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域まで到達、あるいは切迫している</u> 【過去事例】 <u>1888年7月15日の噴火</u>	
			4・ <u>高齢者等避難</u>	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想	警戒が必要な居住地域での避難準備、 <u>要支援者</u> の避難等	<u>・火口から概ね 4 km以内の居住地域に大きな噴石が飛散するような噴火の可能性。</u> <u>・火砕流・火砕サージ、融雪型</u>	

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

				される（可能性が高まっている）	が必要	<u>域まで到達すると予想される</u> 【過去事例】 なし 【予想される事例】 <u>1888 年の水蒸気爆発が積雪期に発生する可能性</u>				される（可能性が高まっている）	が必要	<u>火山泥流が居住地域に影響を及ぼす噴火の可能性。</u> 【過去事例】 <u>有史以降の事例</u> なし	
	火口周辺警報	火口から居住地近くまで	3・入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される	住民は通常の生活 状況に応じて 要配慮者 の避難準備 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等	・ <u>中規模噴火が発生して、火口から概ね 3 km 以内に噴石飛散</u> 【過去事例】 <u>なし</u> ・ <u>中規模噴火の発生が予想される</u> 【過去事例】 <u>2000 年 8 月 15 日：日別地震回数 403 回、有感地震発生、G P S に若干の変化、入山規制、磐梯山ゴールドライン規制</u>	警戒	<u>噴火警報（火口周辺）</u> 又は <u>火口周辺警報</u>	火口から居住地近くまで	3・入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される	住民は通常の生活 状況に応じて 要支援者 の避難準備 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等	・火口から概ね 2 km 以内に噴石飛散、 <u>火砕流・火砕サージが流下するような噴火の発生、またはその可能性。</u> ・ <u>火口から居住地近くまで、融雪型火山泥流が到着、またはその可能性。</u> 【過去事例】 <u>有史以降の事例なし</u>
		火口周辺	2・火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される	住民は通常の生活 火口周辺への立入規制等_____	・ <u>小規模噴火が発生し、火口から概ね 1 km 以内に 大きな 噴石が飛散するような噴火の派生、またはその可能性。</u> 【過去事例】 <u>なし</u> ・ <u>小規模噴火の発生が予想される</u> 【過去事例】 <u>なし</u> <u>2000 年 8 月 15 日：日別地震回数 476 回、有感地震発生、GNSS による地殻変動に若干の変化、入山規制磐梯山ゴールドラインの規制</u>			火口周辺	2・火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される	住民は通常の生活 火口周辺への立入規制等、 <u>状況に応じて、特定地域の避難等</u>	・火口から概ね 1 km 以内に 大きな 噴石が飛散するような噴火の派生、またはその可能性。 【過去事例】 <u>なし</u> <u>2000 年 8 月 15 日：日別地震回数 476 回、有感地震発生、GNSS による地殻変動に若干の変化、入山規制磐梯山ゴールドラインの規制</u>
	噴火予報	火口内等	1・ <u>平常</u>	火山活動は静穏 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）	状況に応じて火口内への立入規制等_____	現在の状態 ・ <u>火山活動は静穏</u> ・ <u>状況により火口内に影響する程度の火山灰や火山ガス等の噴出。</u>	予報	噴火予報	火口内等	1・ <u>活火山であることに留意</u>	火山活動は静穏 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）	状況に応じて火口内への立入規制等、 <u>特定地域の避難の準備等が必要</u>	・ <u>火山活動は静穏</u> ・ <u>状況により火口内に影響する程度の火山灰や火山ガス等の噴出。</u>
<u>注 1）ここでのいう「噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する大きさのものとする。</u> <u>注 2）レベル 3 の規制には、一部道路の規制を含む。</u> <u>注 3）火口とは、銅沼付近の旧火口と沼の平火</u>									<u>注 1）特定地域とは、居住地域よりも磐梯山の想定火口に近い所に位置する集客施設が含まれる地域を指す。居住地域より早期に避難等の対応が必要となる場合がある。</u> <u>注 2）融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。</u>				
<u>(4) 降灰予報</u> <u>噴火発生から概ね 6 時間後までに火山灰が降ると予想される地域を対象に発表される。</u> <u>発表基準：噴煙の高さが 3 km 以上、あるいは噴火警戒レベル 3 相当以上の噴火など、一定規模以</u>							<u>(5) 降灰予報</u> <u>気象庁は、以下の 3 種類の降灰予報を提供する。</u> <u>ア 降灰予報（定時）</u>						

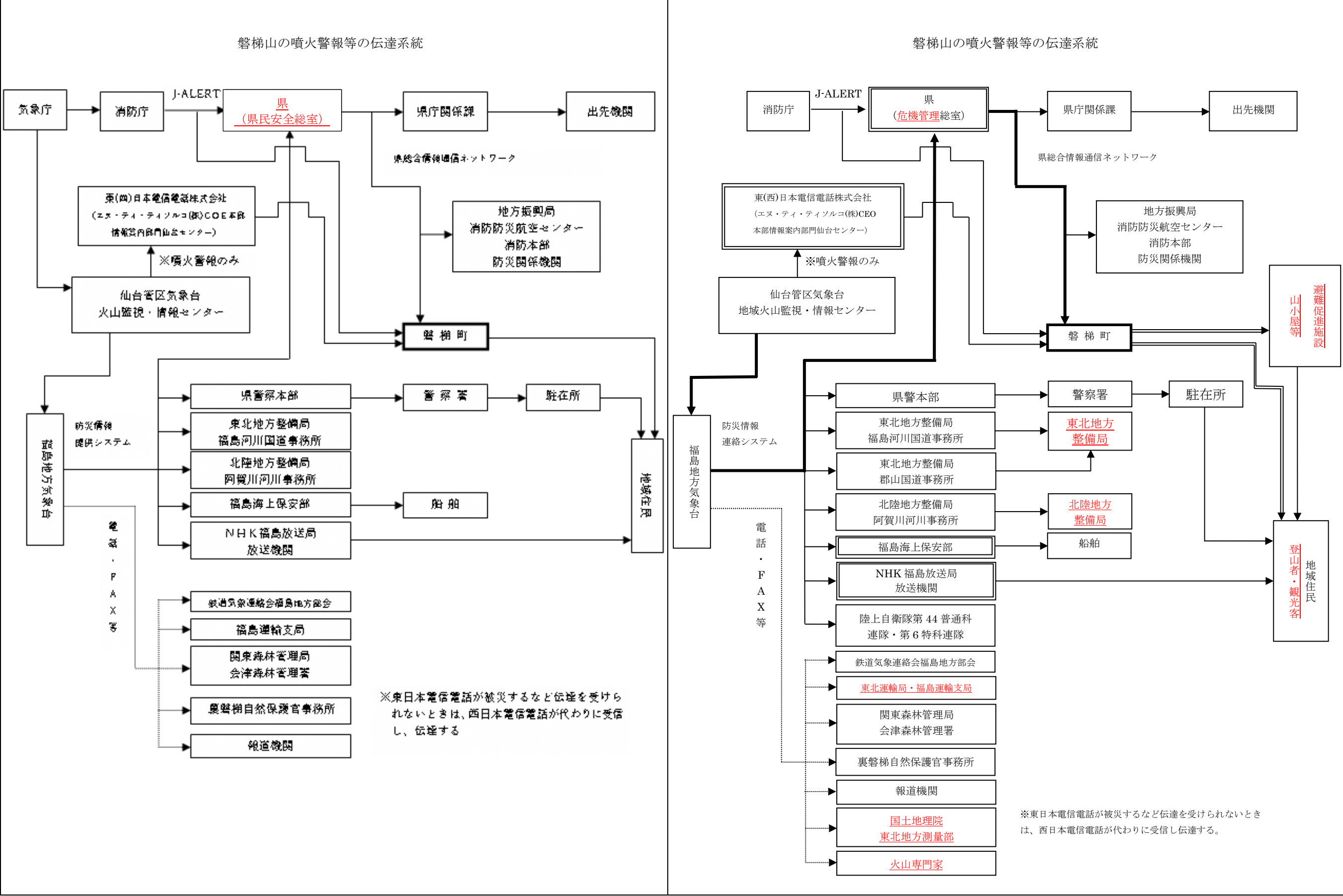
磐梯町地域防災計画 新旧対照表

<p><u>上の噴火が発生した場合</u></p> <p><u>発表時期： 第 1 報は噴火の概ね 3 0 ～ 4 0 分後。噴火の様態や継続状況等を観測して必要に応じ第 2 報を発表。その後も噴火が継続した場合は必要に応じて発表</u></p>	<p><u>・噴火警報発表中の火山で、噴火により人々の生活に影響を及ぼす降灰が予想される場合に、定期的（3 時間ごと）火山に対して発表する。</u></p> <p><u>・ 噴火の発生に関わらず、火山の活動状況に応じて一定規模の噴火を仮定して定期的に発表する。</u></p> <p><u>・ 1 8 時間先（3 時間区切り）までに噴火した場合に予想される、降灰範囲や小さな噴石の落下範囲を提供する。</u></p> <p><u>イ 降灰予報（速報）</u></p> <p><u>・噴火が発生した火山※ 1 に対して、事前計算した降灰予報結果の中から最適なものを抽出して、噴火発生後 5 ～ 1 0 分後に発表する。</u></p> <p><u>・ 噴火発生から 1 時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を提供する。</u></p> <p><u>※ 1 降灰予報（定時）を発表中の火山では、降灰への防災対応が必要となる「やや多量」以上の降灰が予想された場合に発表する。</u></p> <p><u>降灰予報（定時）が未発表の火山では、噴火に伴う降灰域を速やかに伝えるため、予測された降灰が「少量」のみであっても必要に応じて発表する。</u></p> <p><u>ウ 降灰予報（詳細）</u></p> <p><u>・ 噴火が発生した火山※ 2 に対して、降灰予測計算（数値シミュレーション計算）を行い、噴火後 2 0 ～ 3 0 分後程度で発表する。</u></p> <p><u>・ 噴火発生から 6 時間先まで（1 時間ごと）に予想される降灰量分布や、降灰開始時刻を提供する。</u></p> <p><u>※ 2 降灰予報（定時）を発表中の火山では、降灰への防災対応が必要となる「やや多量」以上の降灰が予測された場合に発表する。</u></p> <p><u>降灰予報（定時）が未発表の火山では、噴火に伴う降灰域を速やかに伝えるため、予測された降灰が「少量」のみであっても必要に応じて発表する。</u></p> <p><u>降灰予報（速報）を発表した場合には、予想降灰量によらず、降灰予報（詳細）も発表する。</u></p> <table><tr><th colspan="2">降灰量段階と降灰の厚み</th></tr><tr><td>降灰量階級</td><td>予想される降灰の厚さ</td></tr><tr><td>多量</td><td>1 mm以上</td></tr><tr><td>やや多量</td><td>0. 1 mm以上 1 mm未満</td></tr><tr><td>少量</td><td>0. 1 mm未満</td></tr></table>	降灰量段階と降灰の厚み		降灰量階級	予想される降灰の厚さ	多量	1 mm以上	やや多量	0. 1 mm以上 1 mm未満	少量	0. 1 mm未満
降灰量段階と降灰の厚み											
降灰量階級	予想される降灰の厚さ										
多量	1 mm以上										
やや多量	0. 1 mm以上 1 mm未満										
少量	0. 1 mm未満										
<p><u>（5）火山ガス予報</u></p> <p><u>火山ガスの濃度が高まる可能性のある地域を対象に発表される。</u></p> <p><u>注）該当する火山は、当面、三宅島のみ。</u></p> <p><u>発表基準： 居住地域に長期間影響するような多量の火山ガスの放出がある場合</u></p> <p><u>発表時期： 原則として定時</u></p>	<p><u>（6）火山ガス予報</u></p> <p><u>仙台管区气象台が、居住地域に長時間影響するような多量の火山ガスの放出がある場合に、火山ガスの濃度が高まる可能性のある地域を発表する。</u></p>										
<p><u>（6）火山の状況に関する解説情報</u></p> <p><u>噴火警報・予報及び降灰予報以外に、火山活動の状況等をお知らせするための情報等で、気象庁及び仙台管区气象台が発表する。</u></p> <p><u>ア 火山の状況に関する解説情報</u></p> <p><u>火山性地震や微動の回数、噴火等の状況や警戒事項を取りまとめたもので、定期的又は必要に応じて臨時に発表する。</u></p> <p><u>イ 火山活動解説資料</u></p> <p><u>地図や図表等を用いて火山活動の状況や警戒事項を詳細に取りまとめたもので、毎月又は必要に応じて臨時に発表する。</u></p> <p><u>ウ 週間火山概況</u></p> <p><u>過去一週間の火山活動の状況や警戒事項を取りまとめたもので、毎週金曜日に発表する。</u></p> <p><u>エ 月間火山概況</u></p> <p><u>前月一ヶ月間の火山活動の状況や警戒事項を取りまとめたもので、毎月上旬に発表する。</u></p>	<p><u>（7）火山の状況に関する解説情報</u></p> <p><u>仙台管区气象台が、噴火警報・予報、火山の状況に関する解説情報、降灰予報及び火山ガス予報以外に、火山活動の状況等をお知らせするために発表する</u></p> <p><u>ア 火山活動解説資料</u></p> <p><u>写真や図表等を用いて火山活動の状況や防災上警戒・注意すべき事項等について解説するため、臨時及び定期的に発表する。</u></p> <p><u>イ 月間火山概況</u></p> <p><u>前月一ヶ月間の火山活動の状況や警戒事項を取りまとめ、毎月上旬に発表する。</u></p> <p><u>ウ 噴火に関する火山観測報</u></p> <p><u>噴火が発生したときや、噴火に関する情報（噴火の発生時刻・噴煙高度・噴煙の流れる方向・噴火に伴って観測された火山現象等）を噴火後直ちにお知らせするために発表する。</u></p> <p><u>エ 噴火速報</u></p> <p><u>仙台管区气象台が、登山者や周辺の住民に対して、火山が噴火したことを端的にいち早く伝え、身</u></p>										

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

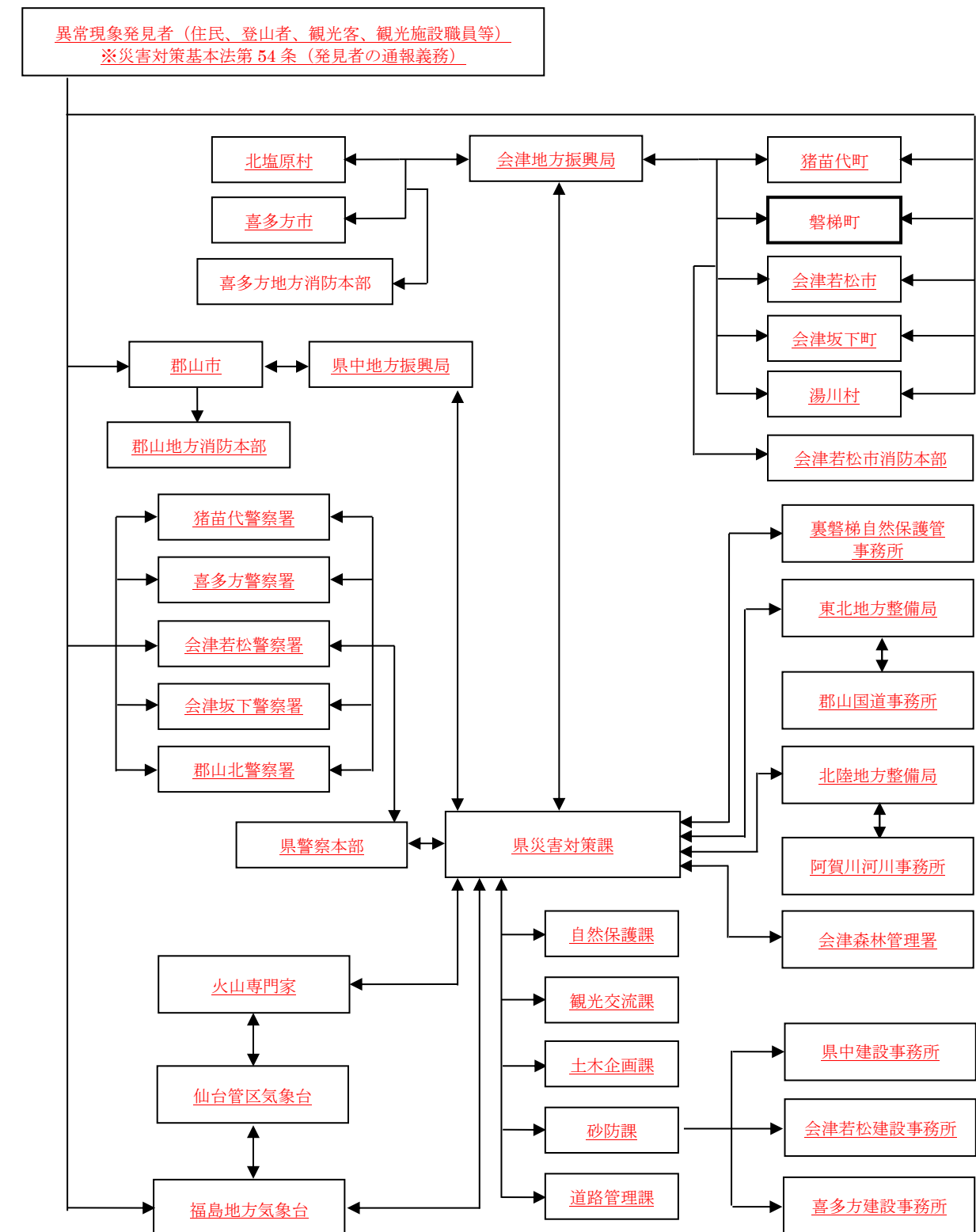
[illegible]

磐梯町地域防災計画 新旧対照表



磐梯町地域防災計画 新旧対照表

(表の追加)



※関係機関が双方向から情報伝達を行うことにより、関係機関内で情報共有し災害対策等を行うものとする。

※県及び市町村は関係する観光団体、観光施設等と情報共有を図るとともに山岳会等の団体に対して速やかに情報提供するものとする。

※災害時には関係機関が連携して対応する。

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

<div>第3 火山災害予防措置</div> <div>(略)</div> <div>2 火山現象の知識の啓発</div> <div>(1) 住民等に関する啓発</div> <div>町は、火山地域の住民、登山者及び観光客等に対して危険防止のための知識の啓発を行うとともに、県観光開発公社、観光協会及び交通会社その他の火山地域にかかる関係機関に啓発について協力を要請する。</div> <div>特に町は、異常現象を発見した場合の通報義務について啓発を図るものとする。</div> <div>また、火山性ガスの噴出地帯などの危険箇所については、立看板を設置するなど、住民、登山者、観光客等へ周知を図るものとする。</div> <div>(略)</div> <div>3 訓練の実施</div> <div>(1) 防災訓練</div> <div>町は、防災関係機関及び住民等に参加を求め、火山災害の防止又は軽減を図るため防災訓練を実施する。訓練を行うに当たっては、ハザードマップや噴火シナリオ等を活用して被害の想定を明らかにするとともに、実施時間を工夫するなど様々な条件を設定し、参加者自身の判断も求められる内容を盛り込むなど実践的なものとなるよう工夫する。</div> <div>(略)</div> <div>4 危険区域の明示</div> <div>町は、県及び関係機関と連携し、過去の噴火の状況等に基づき、災害の発生が予想される区域を把握するとともに、火山災害に関する火山災害予想区域図（ハザードマップ）により、警戒避難対策等を明示し、住民等への情報提供を効果的に行うものとする。</div> <div>(新設)</div> <div>(新設)</div>	<div>第3 火山災害予防措置</div> <div>(略)</div> <div>2 火山現象の知識の啓発</div> <div>(1) 住民等に関する啓発</div> <div>町は、火山地域の住民、登山者及び観光客等に対して危険防止のための知識の啓発を行うとともに、県観光物産交流協会、観光協会及び交通会社その他の火山地域にかかる関係機関に啓発について協力を要請する。</div> <div>特に町は、異常現象を発見した場合の通報義務について啓発を図るものとする。</div> <div>また、火山性ガスの噴出地帯などの危険箇所については、立看板を設置するなど、住民、登山者、観光客等へ周知を図るものとする。</div> <div>(略)</div> <div>3 訓練の実施</div> <div>(1) 防災訓練</div> <div>町は、防災関係機関及び住民等に参加を求め、火山災害の防止又は軽減を図るため防災訓練を実施する。訓練を行うに当たっては、ハザードマップや噴火シナリオ等を活用して被害の想定を明らかにするとともに、実施時間を工夫するなど様々な条件を設定し、参加者自身の判断も求められる内容を盛り込むなど実践的なものとなるよう工夫する。なお、広域避難を想定する場合は、避難先の市町村にも参加を求める。</div> <div>(略)</div> <div>4 危険区域の明示</div> <div>町は、県及び関係機関と連携し、過去の噴火の状況等に基づき、災害の発生が予想される区域を把握するとともに、火山災害に関する火山災害予想区域図（ハザードマップ）により、警戒避難対策等を明示し、住民等への情報提供を効果的に行うものとする。なお、居住地域における避難対象地域は「磐梯山の火山活動が活発化した場合の避難計画」に定めるものとする。</div> <div>5 特定区域の選定</div> <div>想定火山からの距離や避難経路の状況、その他地域の実情を踏まえ、他の居住地域よりも早い（噴火警戒レベルが低い）段階で避難の対応を要する特定地域は、以下のとおりとする。</div> <table><tr><th>対象地域</th><th>噴火警戒レベル</th><th>避難対応</th><th>影響を受ける火山現象</th><th>早期避難を要する理由等</th></tr><tr><td>星野リゾートアルツ 磐梯スキー場周辺</td><td>2</td><td>避難開始</td><td>大きな噴石 火砕流 火砕サージ</td><td>敷地の一部が大きな噴石 や火砕流・火砕サージの 影響範囲（想定火口から 1 km）の範囲内に含まれるため</td></tr></table> <div>6 避難促進施設の指定</div> <div>火口からの距離や火山現象の影響等を考慮し、不特定多数の者が集まる施設や避難に時間を要する要支援者が利用する施設等を避難促進施設として指定する。</div>	対象地域	噴火警戒レベル	避難対応	影響を受ける火山現象	早期避難を要する理由等	星野リゾートアルツ 磐梯スキー場周辺	2	避難開始	大きな噴石 火砕流 火砕サージ	敷地の一部が大きな噴石 や火砕流・火砕サージの 影響範囲（想定火口から 1 km）の範囲内に含まれるため
対象地域	噴火警戒レベル	避難対応	影響を受ける火山現象	早期避難を要する理由等							
星野リゾートアルツ 磐梯スキー場周辺	2	避難開始	大きな噴石 火砕流 火砕サージ	敷地の一部が大きな噴石 や火砕流・火砕サージの 影響範囲（想定火口から 1 km）の範囲内に含まれるため							

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

(新設)

第1 火山災害応急活動体制

火山災害は、突発的に発生が予想されるため、初期の防災機関の立ち上がりが非常に重要である。火山災害が発生した場合、町は、速やかに災害対策本部等組織の編成、要員の確保を行い、初動体制を確立するとともに、関係機関と緊密な連携を図りつつ火山災害の発生を防御し、又は応急的救助を行うなど災害の拡大を防止するための活動体制を整備する。

町災害対策本部の設置、組織及び所掌事務並びに配備体制等については、第3章第1節「応急活動体制」に準ずるものとするが、火山災害時における初動体制及び配備基準については、次による。

配備区分	配 備 時 期	配 備 内 容
警戒配備	(1) 磐梯山において、異常現象の発生や噴火警報（火口周辺）又は火口周辺警報（噴火警戒レベル2～3）が発表されるなど、噴火（爆発）のおそれがあり警戒体制を必要とするとき。 (2) その他特に総務課長又は町長が必要と認めたとき。	災害情報の収集及び伝達並びに監視のため、関係各課の所要の人員をもって当たるもので、事態の推移に伴い速やかに町本部を設置できる体制とする。
第1 時非常配備 (町災害対策本部の設置)	(1) 磐梯山において、噴火警報(居住地域) 又は噴火警報（噴火警戒レベル4～5）が発表されるなど、大噴火（爆発）又はそのおそれがあり、人的及び物的被害が生じ、又は生じるおそれがあるとき。 (2) その他特に町長が必要と認めたとき。	関係各班の所要の人員をもって当たるもので、災害の発生とともにそのまま直ちに非常活動を開始できる体制とする。

また、避難促進施設に指定された施設による避難確保計画の作成を支援し、本計画との整合性を確保する。

施設名称	所在地
星野リゾートアルツ磐梯スキー場	大字更科字清水平6838－68

7 火口周辺規制及び入山規制の範囲

「磐梯山の噴火警戒レベル」に基づき、想定する火口周辺規制、入山規制の範囲を以下のとおりとする。

磐梯山では、北西から南東方向に延びる広い範囲に火口が分布しており、今後噴火の発生が想定される地点を1点に決めることが困難であることから、火口密度分布や噴気孔位置等の諸条件に基づき「磐梯山火山噴火緊急減災対策砂防計画」で設定した想定火口範囲を想定火口とする。

レベル2の場合における警戒範囲：想定火口から概ね1km以内

レベル3の場合における警戒範囲：想定火口から概ね2km以内

(略)

第1 火山災害応急活動体制

火山噴火は、突発的に発生する場合があります、初期の防災機関の立ち上がりが非常に重要である。火山災害が発生した場合、町は、速やかに災害対策本部等組織の編成、要員の確保を行い、初動体制を確立するとともに、関係機関と緊密な連携を図りつつ火山災害の発生を防御し、又は応急的救助を行うなど災害の拡大を防止するための活動体制を整備する。

町災害対策本部の設置、組織及び所掌事務並びに配備体制等については、第3章第1節「応急活動体制」に準ずるものとするが、火山災害時における初動体制及び配備基準については、次による。

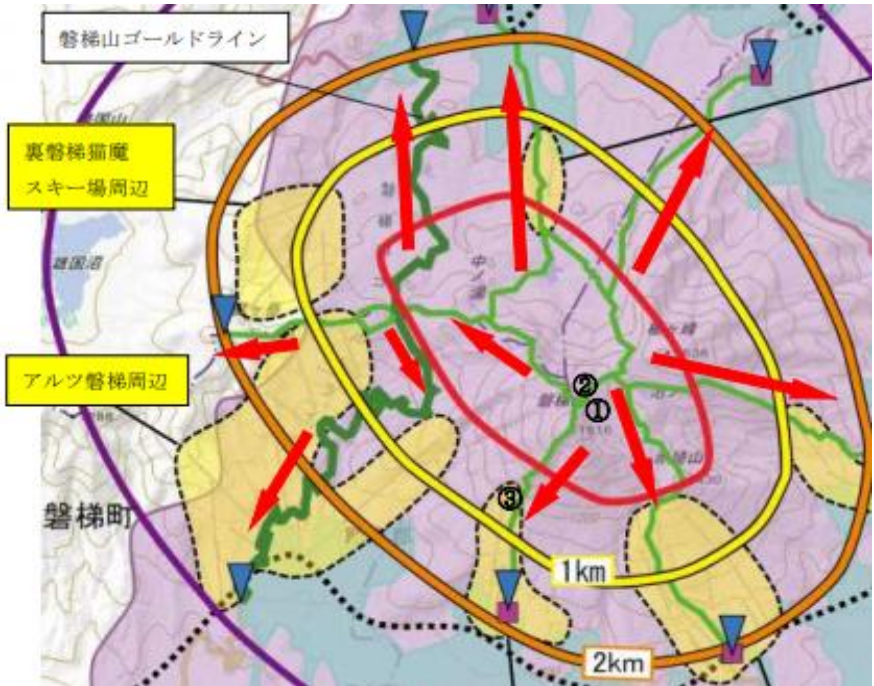
配備区分	配 備 時 期	配 備 内 容
警戒配備	(1) 磐梯山において、異常現象の発生や噴火警報（火口周辺）又は火口周辺警報（噴火警戒レベル2～3）が発表されるなど、火口周辺に影響を及ぼす噴火（爆発）のおそれがあり警戒体制を必要とするとき。 (2) その他特に総務課長又は町長が必要と認めたとき。	災害情報の収集及び伝達並びに監視のため、関係各課の所要の人員をもって当たるもので、事態の推移に伴い速やかに町本部を設置できる体制とする。
第1 非常配備 (町災害対策本部の設置)	(1) 磐梯山において、噴火警報（噴火警戒レベル4～5）が発表されるなど、居住地域まで影響を及ぼす噴火又はそのおそれがあり、人的及び物的被害が生じ、又は生じるおそれがあるとき。 (2) その他特に町長が必要と認めたとき。	関係各班の所要の人員をもって当たるもので、災害の発生とともにそのまま直ちに非常活動を開始できる体制とする。

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

第2 非常配備 (町災害対策本部の設置)	(1) 磐梯山が、大噴火（爆発）し、 人的及び物的被害が生じ、事態 が重大であると認められると き。 (2) その他特に町長が必要と認め たとき。	災害対策本部の全員をもっ て当たるもので、状況により それぞれの災害応急対策活 動ができる体制とする。
<p>(略)</p> <p>2 監視 町長は、火山の現象により、火山地域において登山者及び観光客等の生命及び身体を保護するため 特に必要と認めるときは、状況に即応した監視を行うものとする。ただし、平常時においては、県観光 開発公社、県道路公社及び交通会社その他の火山地域にかかる関係機関に、その駐在員等による監視 を要請することができるものとする。</p> <p>3 避難</p> <div></div>		

第2 非常配備 (町災害対策本部の設置)	(1) 磐梯山において、大規模な噴 火し、人的及び物的被害が生 じ、事態が重大であると認めら れるとき。 (2) その他特に町長が必要と認め たとき。	災害対策本部の全員をもっ て当たるもので、状況により それぞれの災害応急対策活 動ができる体制とする。															
<p>(略)</p> <p>2 監視 町長は、火山の現象により、火山地域において登山者及び観光客等の生命及び身体を保護するため 特に必要と認めるときは、状況に即応した監視を行うものとする。ただし、平常時においては、県観光 物産交流協会、県道路公社及び交通会社その他の火山地域にかかる関係機関に、その駐在員等による監視 を要請することができるものとする。</p> <p>3 避難 (1) 居住地域における避難場所（避難所）及び避難経路 磐梯山で火山災害が発生した場合に、住民等が避難する場所及び避難の経路は「磐梯山の火山活動 が活性化した場合の避難計画」に定めるものとする。 (2) 火口周辺地域における避難 噴火警戒レベル2に相当する噴火警報（火口周辺）が発表され、火口周辺に影響を及ぼすおそれがある と認めるときは、登山者や特定地域にいる観光客等に避難を指示し、避難者を誘導する。 登山者に対して、警察等と連携し、登山届をもとに主な登山口における下山者の安否確認を行う。また、 噴火警戒レベルの引上げにより、予定外の登山口に下山した登山者等を各登山口や避難所へ搬送 する。 磐梯山の火口周辺における緊急退避場所及び避難方向は、以下のとおりである。</p> <table><tr><th colspan="3">火口周辺の緊急退避場所</th></tr><tr><th>名称</th><th>構造・面積</th><th>想定収容人数</th></tr><tr><td>①弘法清水小屋</td><td>木 造 3 0 m²</td><td>約1 5 名</td></tr><tr><td>②岡部小屋</td><td>木 造 6 9 m²</td><td>約3 4 名</td></tr><tr><td>③磐梯山ロープウェイ駅</td><td>鉄骨造 1 2 0 m²</td><td>約6 0 名</td></tr></table> <p>火口周辺における避難方向</p>			火口周辺の緊急退避場所			名称	構造・面積	想定収容人数	①弘法清水小屋	木 造 3 0 m ²	約1 5 名	②岡部小屋	木 造 6 9 m ²	約3 4 名	③磐梯山ロープウェイ駅	鉄骨造 1 2 0 m ²	約6 0 名
火口周辺の緊急退避場所																	
名称	構造・面積	想定収容人数															
①弘法清水小屋	木 造 3 0 m ²	約1 5 名															
②岡部小屋	木 造 6 9 m ²	約3 4 名															
③磐梯山ロープウェイ駅	鉄骨造 1 2 0 m ²	約6 0 名															

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

<p>(1) 避難準備</p> <p>町長は、噴火警戒レベル3に相当する噴火警報（<u>火口周辺</u>）が発表され、居住地域の近くまで災害を発生させる現象がおよぶと認めるときは、警戒が必要な居住地域の高齢者、障がい者等の<u>要配慮者</u>に対して避難の準備を呼びかけるものとする。</p> <p>また、噴火警戒レベル4に相当する噴火警報（<u>居住地域</u>）が発表され、居住地域において災害が発生するおそれがあると認めるときは、警戒が必要な居住地域の住民に対して避難の準備を呼びかけるものとする。</p> <p>(2) 事前避難</p> <p>町長は、噴火警戒レベル3に相当する噴火警報（<u>火口周辺</u>）が発表され、居住地域の近くまで災害を発生させる現象が及ぶと認めるときは、事前に登山者及び観光客に対して避難を<u>勧告、又は</u>指示し、避難者を誘導する。</p> <p>また、噴火警戒レベル4に相当する噴火警報（<u>居住地域</u>）が発表され、災害が発生するおそれがあると認めるときは、警戒が必要な居住地域の高齢者、障がい者等の<u>要配慮者</u>に対して避難を<u>勧告、又は</u>指示し、避難者を誘導する。これらの<u>勧告</u>、指示、誘導においては、高齢者、障がい者等の<u>要配慮者</u>に対しては十分配慮する。</p> <p>避難の<u>勧告、又は</u>指示するときは、避難先を明示するものとし、広報車、消防車等により地域住民に伝達する。（本事項は、以下（3）、（4）の伝達についても準用する。）</p> <p>(3) 緊急避難</p> <p>町長は、火山現象により、住民等の生命及び身体 の保護が緊急を要すると認められるとき、又は噴火警戒レベル5に相当する噴火警報（<u>居住地域</u>）を受けたときは、住民等に避難を勧告又は指示する。その際は、高齢者、障がい者等の<u>要配慮者</u>に十分配慮する。</p> <p>避難<u>勧告又は</u>指示に当たっては、緊急である旨及び避難場所を付言し、諸対策に優先して行うものとする。</p> <p>(4) 最終避難</p> <p>町長は、緊急避難の後危険性が一時的に消滅したと認めるときで、さらに遠方に避難する必要がある</p>	 <p>(3) 避難準備</p> <p>町長は、噴火警戒レベル3に相当する噴火警報 _____ が発表され、居住地域の近くまで災害を発生させる現象がおよぶと認めるときは、警戒が必要な居住地域の高齢者、障がい者等の<u>要支援者</u>に対して避難の準備を呼びかけるものとする。</p> <p>また、噴火警戒レベル4に相当する噴火警報 _____ が発表され、居住地域において災害が発生するおそれがあると認めるときは、警戒が必要な居住地域の住民に対して避難の準備を呼びかけるものとする</p> <p>(4) 事前避難</p> <p>町長は、噴火警戒レベル3に相当する噴火警報 _____ が発表され、居住地域の近くまで災害を発生させる現象が及ぶと認めるときは、事前に登山者及び観光客に対して避難を _____ 指示し、避難者を誘導する。</p> <p>また、噴火警戒レベル4に相当する噴火警報 _____ が発表され、災害が発生するおそれがあると認めるときは、警戒が必要な居住地域の高齢者、障がい者等の<u>要支援者</u>に対して避難を _____ 指示し、避難者を誘導する。これらの _____ 指示、誘導においては、高齢者、障がい者等の<u>要支援者</u>に対しては十分配慮する。</p> <p>避難を _____ 指示するときは、避難先を明示するものとし、広報車、消防車等により地域住民に伝達する。（本事項は、以下（3）、（4）の伝達についても準用する。）</p> <p>(5) 緊急避難</p> <p>町長は、火山現象により、住民等の生命及び身体 の保護が緊急を要すると認められるとき、又は噴火警戒レベル5に相当する噴火警報 _____ を受けたときは、住民等に避難を勧告又は指示する。その際は、高齢者、障がい者等の<u>要支援者</u>に十分配慮する。</p> <p>避難 _____ 指示に当たっては、緊急である旨及び避難場所を付言し、諸対策に優先して行うものとする。</p> <p>(6) 最終避難</p> <p>町長は、緊急避難の後危険性が一時的に消滅したと認めるときで、さらに遠方に避難する必要があると認められるときは、緊急避難者に対して最終的に安全な場所への避難を _____ 指示し、避難者</p>
--	--

磐梯町地域防災計画 新旧対照表

<p>ると認められるときは、緊急避難者に対して最終的に安全な場所への避難を<u>勧告又は</u>指示し、避難者を誘導又は搬送する。その際は、高齢者、障がい者等の<u>要配慮者</u>に十分配慮する。</p> <p>この場合、町長は、県<u>県民安全</u>総室、福島地方気象台、県警察本部その他の関係機関と十分協議する。</p> <p>(<u>5</u>) 収容</p> <p>町長は、災害が長期間にわたる場合は、必要に応じて収容施設を開設し、避難者を収容する。</p> <p>(略)</p> <p>5 救出</p> <p>火山災害の現場において要救助者があるときは、市町村その他の防災関係機関又は現場にいる者はその者の救出に当たるものとする。</p> <p>(1) 救助隊の編成</p> <p>町長は、消防団等による救助隊を編成するほか、県警察又は災害派遣による自衛隊（派遣要請先は、知事（<u>県民安全</u>総室））その他の防災関係機関に救助隊の編成を要請し、要救助者の救助に当たるものとする。</p> <p>特に山岳救助及び空中救助に当たっては、関係機関と十分に協議する。</p> <p>(2) 二次災害の防止</p> <p>救助活動に当たっては、火山現象の規模、態様等を十分に考慮し、<u>二次災害の防止に万全を期する。</u></p> <p>(略)</p> <p>8 警備活動</p> <p>火山の<u>爆発</u>等に伴う公共の安全確保及び各種犯罪の予防、取り締まり等の治安の維持については、第3章第13節「警備活動及び交通規制措置」によるものとする。</p> <p>(略)</p>	<p>を誘導又は搬送する。その際は、高齢者、障がい者等の<u>要支援者</u>に十分配慮する。</p> <p>この場合、町長は、県<u>危機管理</u>総室、福島地方気象台、県警察本部その他の関係機関と十分協議する。</p> <p>(<u>6</u>) 収容</p> <p>町長は、災害が長期間にわたる場合は、必要に応じて収容施設を開設し、避難者を収容する。</p> <p>(略)</p> <p>5 救出</p> <p>火山災害の現場において要救助者があるときは、市町村その他の防災関係機関又は現場にいる者はその者の救出に当たるものとする。</p> <p>(1) 救助隊の編成</p> <p>町長は、消防団等による救助隊を編成するほか、県警察又は災害派遣による自衛隊（派遣要請先は、知事（<u>危機管理</u>総室））その他の防災関係機関に救助隊の編成を要請し、要救助者の救助に当たるものとする。</p> <p>特に山岳救助及び空中救助に当たっては、関係機関と十分に協議する。</p> <p>(2) 二次災害の防止</p> <p>救助活動に当たっては、火山現象の規模、態様等を十分に考慮<u>するとともに、火山防災協議会（学識者、関係機関）からの技術的な助言・支援を踏まえ、</u>二次災害の防止に万全を期<u>して行う。</u></p> <p>(略)</p> <p>8 警備活動</p> <p>火山の<u>噴火</u>等に伴う公共の安全確保及び各種犯罪の予防、取り締まり等の治安の維持については、第3章第13節「警備活動及び交通規制措置」によるものとする。</p> <p>(略)</p>
--	--

磐梯町地域防災計画 新旧対照表